

本号の主要記事

○第2回全国理事会

○山口大会決算報告

○事務職員研修会

○教職員等中央研修(第2回事務職員研修)

2019

協会ニュース 202号



世界文化遺産・国宝 姫路城(白鷺城)

写真提供: 姫路観光コンベンションビューロー

平成31年1月1日発行

全国公立高等学校事務職員協会

<http://zenjikyo.jimdo.com/>

事務局: 茨城県立境高等学校

電話: 0280-87-0123

住所: 茨城県猿島郡境町175

新年のごあいさつ



全国公立高等学校事務職員協会 会長 秋田 剛

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、穏やかで希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年も本会活動に御支援、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成30年は、災害が多かった年でもあり、それも短期間に集中した年でした。自然災害は予測が難しく判断に迷うことが多々あります。その経験を生かし、事前に準備できることをしておくべきであり、そのための研究も必要です。現に、研究大会において、災害に関する研究発表も多くあり、参考にさせていただいていることと思います。

本会の会則では、目的として第2条に「会員相互の緊密な連携のもとに、学校経営と事務管理の研究並びに会員の資質向上を図り、もって学校教育効果の進展に寄与する」とあります。また第3条では、目的達成のため「① 学校経営と事務管理に関する研究、② 会員の教養と資質向上に関する研究、③ 研究大会の開催、④ その他本会の目的達成に必要な事業」を行うとしています。つまり、単に研修を目的としているのではなく、研究や資質向上を図る必要があります。そのような中で、研究発表をすることが難しいということを聞きます。本務の合間を縫っての研究、集まっての研究発表の議論、また、研究発表をするための題材探しなど難しい状況があると聞いています。そういった中で、研究発表をされた方には、そのご苦勞に感謝するとともに、敬意を表します。

とかく、発表のための研究であり、本来の目的とはずれている、また、各協会の発表としては役に立つが、他協会には参考にならないということも聞きます。しかし、私はそうは思いません。その協会が、何に困っているか、それを解消するためには何が必要なのか、どのような方法が良いのかなどを知ることは決して無駄になることではないと考えます。また、研究発表に携わった方においても、本務の合間を縫っての研究であり負担になっているかと思いますが、研究を通じて得られたことは、自身の資質向上につながっているのではないのでしょうか。そして、何よりも、一緒に研究した仲間との会話や交流は、その方にとっての今後の大きな財産になると思います。これこそが本会目的達成の根幹、骨格をなすものと考えられます。忙しい中、研究をされている方、これから研究をされる方、大変かとは思いますが、前向きにとらえて頑張ってください。

平成31年は、平成最後の年になります。消費税の増税などもあります。その対応をしなければなりません。また、災害が起きないことを願い、会の目的でもある学校教育効果の進展に寄与できるようさらに、会員の皆様とともに努力していきます。

平成30年度

第2回全国理事会報告

期日:平成30年11月22日(木)

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター

11月22日(木)国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)において今年度の第2回全国理事会が行われ、全国から都道府県市協会長が参集した。

理事会出席者は、協会役員を含め総勢69名。以下のとおり全国理事会の概要を報告する。



冒頭、秋田会長のあいさつにおいて、前回の全国理事会で呼びかけた平成30年7月豪雨災害募金について、最終募金額 1,494,281 円が日本赤十字社から義援金として被災地に届けられるよう対応したとの報告があった。

<報告事項>

○協会の活動状況及び情勢について

理事会資料の「全国理事会議案書」に基づき平成30～31年の主な活動内容の報告と今後の活動予定についての説明を行った。

○第1回全国理事会及び第71回全国研究大会並びに総会について

平成30年7月25日～27日の三日間に渡る山口大会の実績報告を行った。

○第71回全国研究大会の決算報告等について

松田実行委員長より、全国研究大会(山口大会)の決算報告と参加者の集計結果の説明を行った。

また、大会に多くの方々(717名)が参加されたことに対して感謝の意が述べられた。

(収支決算報告は次のページに掲載)

○全国調査について

「平成30年度全国協会要覧」に掲載の全国調査集

計結果についての説明を行った。

<審議事項>

○第71回全国研究大会優秀研究発表者の表彰について

審査の経緯が報告され、最優秀は該当なし、最優秀に準ずるものとして静岡県、千葉県、北海道及び和歌山県(順不同)の研究発表4本を推挙し表彰する旨の提案があり、承認された。

○第1回全国理事会等の日程について

2019年7月24日(水)兵庫県姫路市「ホテル日航姫路」での開催を提案し、承認された。

○第72回全国研究大会特別分科会について

全国から推薦を受けた若い職員が一堂に会し「若手職員の悩みや課題と解消に向けた取組、改善方策」などのテーマについて意見交換、討議し、コミュニケーション能力を高めるとともに、全国の若手職員が情報共有する機会を提供すること、そこで得た情報、経験談等を自身の協会に持ち帰り、次代を担う人材育成の一助とするため、全国研究大会開会式前日から特別分科会を実施することを提案し、承認された。

○第72回兵庫大会並びに総会の日程について

川上副会長(兵庫県実行委員長)より、以下のとおり提案があり、承認された。

・期 日: 2019年7月24日(水)～26日(金)

・日 程: 24日 13:20～17:00

(特別分科会)

25日 9:30～16:10

(総会終了17:30)

26日 9:20～16:20

・会 場: ウィンク武道館(兵庫県立武道館) 他
兵庫県姫路市

・全体会: 記念講演 演題「未定」講師「兵庫県立歴史博物館館長補佐(学芸員) 堀田浩之氏」

<連絡事項>

○協会要覧の配付について

昨年度の全国理事会で承認されたとおり、今年度より、各校1冊の配付ではなく、全国理事会会場にて各協会分5冊を各協会長に配付し、会員閲覧用として全国協会ホームページにPDFファイルを掲載することとした。

○「学校事務」誌への原稿依頼について

学事出版社刊の「学校事務」誌の特集、連載等の執筆者を募っている。研究部から、あるいは各協会長を通じて依頼があった場合には、是非引き受けていただきたい。(総務部長 櫻井)

第71回全国公立高等学校事務職員研究大会収支決算書

収入決算額 7,070,021 円
 支出決算額 7,070,021 円
 差引残高 0 円

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
大会参加費	3,200,000	2,870,000	-330,000	参加費 4,000円×715名 5,000円×2名
負担金	4,000,000	4,000,000	0	協会本部
補助金	200,000	200,000	0	日本教育公務員弘済会山口支部
雑収入	0	21	21	預金利息
合 計	7,400,000	7,070,021	-329,979	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
大会準備費	2,977,000	3,002,196	-25,196	
旅 費	2,242,286	2,247,889	-5,603	先催県視察、合同打合せ等
会 議 費	92,000	71,098	20,902	会場使用料等
消 耗 品 費	287,714	377,349	-89,635	大会準備消耗品
通 信 運 搬 費	24,000	18,018	5,982	各種資料等郵送料、振込手数料
使用料及び賃借料	331,000	287,842	43,158	リハーサルの会場使用料等
大会運営費	4,323,000	4,067,825	255,175	
旅 費	284,760	411,995	-127,235	文科省、記念講演、基調講演講師等
会 議 費	350,000	476,622	-126,622	全国理事会等会場使用料
消 耗 品 費	268,370	302,907	-34,537	大会運営消耗品
食 料 費	183,720	263,175	-79,455	講師等昼食、お茶代
印 刷 製 本 費	594,000	381,996	212,004	大会要項・資料等印刷
通 信 運 搬 費	7,000	5,972	1,028	各種資料等郵送料、振込手数料
使用料及び賃借料	1,548,750	1,551,330	-2,580	大会会場使用料、機器レンタル料等
報 償 費	375,400	112,085	263,315	講師謝金
委 託 料	711,000	561,743	149,257	大会看板・懸垂幕等作成設置、旅行取扱業務委託料
予 備 費	100,000	0	100,000	
合 計	7,400,000	7,070,021	329,979	

平成30年度 事務職員研修会

・講義

「ストレスゼロをコミュニケーションで
実現しよう！」～心の健康管理のために
次世代リーダーに求められるもの～

・グループワーク

講師

(株)総合教育コンサルティング
前田 京子氏

平成30年11月22日(木)に事務職員研修会が国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)において行われた。

午前には講義、午後は各協会から推薦された研修生69名が12班に分かれて、グループワーク形式の研修を行った。



◇第1部 講義

(1)3つの柱

- ・現代社会において人間心理・ストレスのメカニズム及び現状を知り、心の健康管理(メンタルヘルス)の必要性を理解する。
- ・カウンセリングマインドや組織の中でのコミュニケーションスキルを学び予防に役立てる。その手法の一つとしてコーチング手法を学び、傾聴だけでなく自信や可能性を引き出させるミドルリーダーの育成を図る。
- ・メンタル不調者や復職者への対応、サポート体制づくりについて学ぶ。

(2)講義の概略

前半はメンタルヘルスとはなにか?から始まり、ストレスの要因や、ストレスに対するセルフケア(気づき・対処)の必要性と方法について、わかりやすくジェスチャーを交えての講義が行われた。

ストレス解消法として、①休養と睡眠 ②入浴と運動 ③食事というキーワードを挙げ、下手なカウンセリ

ングを受けるよりも、しっかり睡眠をとり、お風呂に入り、おいしいものを食べて五感を満たすことが大事という話は受講生も共感できたはずです。

後半の組織でのコミュニケーションスキル(カウンセリングマインド・コーチング)については、コミュニケーションの取り方で職場の雰囲気が良いも悪くなることを意識させ、職場における「良い雰囲気づくり」にむけて、リーダーが果たす役割の必要性を再認識させる内容となっていた。

◇第2部 グループワーク

(1)グループワークその1

～快適な職場環境のために～

- ・自己紹介
- ・グループ内でリーダーを決定
- ・「職場環境を向上させていくために、今後実践していく3つのこと」について受講者個人の考えをグループ内で発表
- ・グループ内で、最も重要と思われる3つの考えを選定し、模造紙に記入
- ・模造紙の記入内容をグループの代表者が発表

(2)グループワークその2

～問いかけカトレーニング～

- ・課題発表者を決めて、困っている課題を発表
- ・他のメンバーによる課題の見直し、課題が明白になる問いかけの実施
- ・課題解決につながる行動具体策の提案
- ・事後振り返り

現在悩んでいる悩みは、解決できる本当の悩みではないかもしれない。見方を変えることによって本当の悩みが浮かび上がる。問いかけ力を高めることが本当の悩みを解決する一助となる。



平成30年度 事務職員研修会 参加者アンケート集計結果

「ストレスゼロをコミュニケーションで実現しよう！」

～心の健康管理のために次世代リーダーに求められるもの～

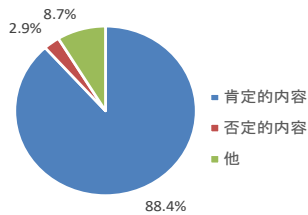
講師：(株)総合教育コンサルティング 前田京子 氏

1 回答率

100% (参加者69名)

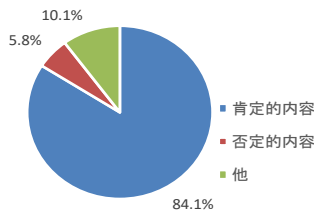
2 回答内容

【問1】今回の研修の題材・内容についての感想



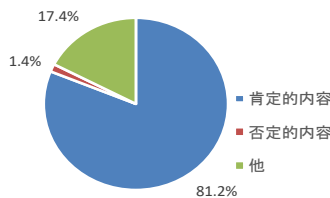
	件数	内容
肯定的内容	61	身近で実践的でタイムリーな内容だった等
否定的内容	2	内容が表面的。メンタルヘルスは流行りなのか
他	6	1泊2日の研修が良い 未回答5

【問2】講演についての感想



	件数	内容
肯定的内容	58	内容が実践的で多くの気づきがあった等
否定的内容	4	より専門的な話が聞きたかった等
他	7	もう少し時間がほしかった等 未回答3

【問3】グループワークについての感想



	件数	内容
肯定的内容	56	様々な考え方や意見を吸収できた等
否定的内容	1	少し難しかった
他	12	もっと時間がほしかった等 未回答7

【問4】次回以降研修で取り上げて欲しいテーマ

(複数回答があったテーマ)

- ・コミュニケーション 11件
- ・リーダー論 4件
- ・働き方改革 3件
- ・タイムマネジメント 2件

(その他)

- ・職場改善
- ・危機管理
- ・学校経営参画
- ・専門職としてのあり方
- ・全国的な最先端の話題
- ・クレーム対応
- ・ICTへの対応
- ・定年延長等への課題
- ・特別支援学校問題
- ・コーチング
- ・部下・後輩育成

【問5】その他全国協会への要望等

- ・今後もこのような研修会を継続してほしい。(9件)
- ・より情報交換の機会を提供してほしい。(5件)
- ・日程的に1日では短い。(2件)
- ・ホームページを楽しみに見えています。
- ・休会する都道府県が増えているのは残念。
- ・PTA業務から事務長を解放してほしい。

平成30年度 教職員等中央研修 (第2回 事務職員研修)

茨城県つくば市にある「独立行政法人教職員支援機構つくば本部」において、104名の参加者による平成30年度教職員等中央研修(第2回事務職員研修)が平成30年10月15日(月)～10月19日(金)の日程で開催された。

この研修は、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者を対象として開催されている。

◇目的

教職員等中央研修は、学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、副校長、教頭、中堅教員及び事務職員等を育成すること。

◇主催

独立行政法人 教職員支援機構

◇共催

文部科学省

◇受講者

(1)受講資格

高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者

(2)標準定員

5ユニット(100人)

◇全国協会の協力

協会からは、10月19日(金)の午前中に「ケース・メソッド」マネジメントの実践において、5名の理事が指導助言者として参加した。なお、研修全般について、研修参加者による誌上報告が「学校事務 平成31年3月号」で行われる予定なので、是非そちらをご覧ください。

いただきたい。

<ケース・メソッド>

マネジメントの実践

～災害時における事務長(事務室)の役割～

ケース・メソッドとは、特定の学習目標を達成するために、作られたケース(事例)を用いて受講者同士の討議を繰り返すことで実践力を付けていく手法であり、さまざまな場面で会社の中であるいは、経営活動の中で現実に起こった具体的なケースを素材として当事者(本人)の立場として個人やグループで考察、論議していく過程を通して分析力、判断力、洞察力、意思決定能力などを学んでいく研修方式です。

受講者自らケースのような事案に遭遇したとき、いかなる行動をとるべきか(判断するか)の結論にまで思考が至るか、解決策の策定まで到達することが出来るかを自らが感じ取り、もし、不足するものがあるのなら、自らが学び取って行かなければならないことを目的とし、結論よりも討議のプロセスを重要視しているものです。

今回の研修では、事務長らしいものの見方、考え方を身につけ実践力を高める内容になっていました。宿泊を伴う長期間にわたる濃密な研修日程を全国の同志とともに体験したことは、貴重で有益な機会になったと思います。このような研修は、受講内容を振り返り、学校現場で活かしていくことが重要です。受講された皆様におかれましては、この研修の成果を各地域で新しい学校づくりの中心的指導者となって還元され一層活躍されることを祈念します。



本部活動報告

●常任理事会(東京・小山台会館)

11/ 9 全国理事会・兵庫県大会分科会運営ほか
12/14 全国理事会運営・事務職員研修ほか

●常任理事会(全体会)

(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)

11/22 第2回全国理事会の運営について

●第2回全国理事会

(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)

11/22 全国理事会(報告及び議事)

●事務職員研修会

(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)

11/22 「ストレスゼロをコミュニケーションで実現しよう！」～心の健康管理のために次世代リーダーに求められるもの～

編集後記

会員の皆様のおかげで「協会ニュース」は202号を迎えることができました。ありがとうございます。

表紙の頁は、平成5年(1993年)12月に奈良の法隆寺とともに日本で初めて世界遺産に登録された「姫路城」です。400年以上が経過した現在でも、その優美な姿から「白鷺城」の愛称で親しまれています。

今年は猪。全国大会に向けて準備に猛進しています。次号「協会ニュース」では兵庫大会について、特集します。

○全国協会 HP アドレス

検索名「全国協会」または、「全国公立高等学校事務職員協会」で可能です。

○「協会ニュース」についてのお問い合わせ

ご連絡は次の広報部編集担当まで

・千葉県立松戸特別支援学校／川島
電話 047-388-2128
FAX 047-388-4781
Mail : t.kwshm10@pref.chiba.lg.jp

・茨城県立取手第二高等学校／柴崎
電話 0297-73-0049
FAX 0297-73-7821
Mail : sibasaki.seiji@post.ibk.ed.jp

・茨城県立伊奈高等学校／宇佐美
電話 0297-58-6175
FAX 0297-58-9248
Mail : usami.fukumi@post.ibk.ed.jp

